

# I. 研究の課題と方法

全国の織物産地は今、深刻な経済不況にさらされている。一千年有余の歴史をもつ織物の町西陣も、織機を打ち壊し、織機を休めて、国の生絹政策に抗議し、そのことの中で内部的な結束を固める姿勢を強めようとしている。需給を調整するために、産地ぐるみで織機を止めたことは、これまでの歴史のなかで何度か行われてきたが、国の蚕糸行政と対決するようなかたちでの「政治スト」は例がないという。

戦後日本の「高度成長」政策のもとで、西陣織物業は、まさに中小企業対応を迫られてきた。石油化学を基礎においた化合繊維工業は主に、原料供給部門として、最先端技術を投入した資本設備を備える巨大企業に成長し、他方で、原料加工部門としての織物工業は、その多くを中小の家内工業的生産に依存してきた。すなわち、①相対的人口過剰がつくりだす豊富な労働力、②伝統的な流通形態に依存した問屋制支配、③需要特性に規定された多種少量生産、といった諸条件のもとで、西陣織物業は、温存されてきた。けれども、2度にわたるオイル・ショックは、西陣により一層厳しい対応を迫っており、西陣は①着尺から帯地、②織機の総台数の増加傾向のなかでの織戸数の減少、③力織機の増加、④京都市域外への出機の増加などの変化がよぎなくされている。いわゆる、西陣の「空洞化」と呼ばれている事態である。しかしながら西陣織物業は、江戸中期にまで溯るとされる生産と流通の「構造的原型」といわれるような、人的・技術的構成のあることも、他方で指摘されるところである。西陣の町は、このような伝統に支えられながら、なお新しい伝統をいかにつくりだしていこうとするのか。

私たちの大学は、織機の声が聞えてくる西陣の隣接地に位置しているし、また今日、大学が地域に開かれた大学として、その存在が問われているなかで、社会学研究に携わる当研究所は、西陣地域に強い関心を抱いてきたのであ

る。そこで社会学における地域社会研究の一端についてもふれておきたい。

戦後日本社会の「高度成長」は、社会学の基礎的な社会類型である農村と都市の境界を極めてあいまいなものに変化させた。農村と都市は文字どおりの「地域開発」の対象としての「地域社会」になっていったのだが、今日、農村や都市と同じように社会学上の概念として、地域社会が確定しえたのかといえ、必ずしもそうとはいえないだろう。

ところで「地域開発」政策が「地域社会」の発展に寄与したのかといえ、むしろ事態が逆であったことは、旧全総から三全総に至る「全国総合開発計画」の目まぐるしく手直しされてきた経過に象徴されている。そして現在昭和62年度の改定を目標に四全総の策定作業が進行していることがすでに報じられている。こうした国家政策の展開に対して、地域住民の対応はまた、1960年前後の各地での企業誘置運動から、60年代後半の進出企業による環境汚染など公害への反対運動、そして、70年代の中期以降の地域づくりをめざす運動へと展開している。地域社会研究は、国家と地域住民の対抗関係を軸としながら、地域社会とは何か、そこでの真に住民による地域形成の論理とは何か、といった課題へと向っている。

本研究は、このような社会学上の地域研究の流れにそって、「西陣の社会学的研究」と題したプロジェクトを形成している。しかしながら、必ずしも社会学的といった点にこだわっているわけではない。だがあえて「社会学的」とされている理由をあげれば、主として2つあげられる。1つは、西陣を1つのエコロジカルな意味での地域と考えて対象を設定している点、もう1つは、西陣についての先駆的研究の多くが、経済学や経営学からのものであり、それらの研究を基礎としながら、社会学研究所として独自の領域からのアプローチを試みたいことを強調

したい点からである。

西陣は、産業と表裏を成した地域として形成されている。機業を中心に多様な関連業種が、まさに織物のように組み合わさって形成されてきた地域といえるだろう。ところが、繊維不況のなかで、機業の階層分解と外延化の進行にともない、西陣の「空洞化」と呼ばれる現象が生じている。西陣地区のこうした根幹をゆさぶる事態のなかで、西陣の地域はどのような“西陣的”対応を迫られているのだろうか。西陣は、生糸相場を通して、世界経済の動向の真直中に引き出されている。そのような西陣が、なお、地域として存在するとすればそれはどのようなものになるのか。これが本研究の中心的課題である。この課題を、さらに、4つの課題、産業・地域・福祉・文化に分解して、プロジェクト

を編成し、今回は、「西陣の社会学的研究」のもとに、「西陣地域住民のくらしと意識の調査」として、地域領域を中心にして準備され、西陣の地域特性を概括的に把握することが目的とされている。

私たちは、このような調査目的を達成するために、今回の調査対象地として、西陣元学区を選定した。それは、既存の官庁統計によって、西陣地区内の元学区を比較分析し、比較的西陣らしいと考えられる調査対象の問題と、その対象地を全数調査として行いたい、しかも、私たち調査主体の条件から可能な規模といった点を考慮して決定された。

調査方法は、訪問による配付、回収の留置アンケート調査法によった。サンプリング作業は昭和57年7月28日・30日、8月10日の3日間、京

表I-1 町内別世帯数及び回収率

|                  | S. 55年国勢調査 |       | S. 57年7月現在 住民票世帯主 |          |       | 調査不能サンプル |     |     |     |     |
|------------------|------------|-------|-------------------|----------|-------|----------|-----|-----|-----|-----|
|                  | 世帯数        | 人口    | 対象サンプル            | 回収有効サンプル | 回収率   | 該当者なし    | 不在  | 拒否  | その他 | 計   |
| 竹屋町              | 34         | 91    | 28                | 23       | 82.1% | 1        | 1   | 3   | —   | 5   |
| 北舟橋町             | 106        | 295   | 118               | 83       | 70.3  | —        | 11  | 7   | 17  | 35  |
| 山名町              | 16         | 40    | 10                | 5        | 50.0  | —        | 2   | 3   | —   | 5   |
| 花開院町             | 52         | 157   | 51                | 29       | 56.9  | —        | 11  | 5   | 6   | 22  |
| 新美濃部町            | 47         | 138   | 37                | 29       | 78.4  | 1        | 2   | 3   | 2   | 8   |
| 大北小路東町<br>(含芝之町) | 40         | 125   | 43                | 22       | 51.2  | —        | 5   | 9   | 7   | 21  |
| 伊佐町              | 62         | 170   | 68                | 31       | 45.6  | —        | 16  | 3   | 18  | 37  |
| 樋之口町             | 23         | 83    | 27                | 16       | 59.3  | 2        | 3   | 3   | 3   | 11  |
| 曼陀羅町             | 15         | 56    | 18                | 16       | 88.9  | —        | 2   | —   | —   | 2   |
| 硯屋町              | 37         | 113   | 35                | 20       | 57.1  | 5        | 5   | 1   | 4   | 15  |
| 紋屋町              | 61         | 179   | 57                | 37       | 64.9  | —        | 11  | 3   | 6   | 20  |
| 古美濃部町            | 17         | 39    | 16                | 13       | 81.3  | —        | —   | 2   | 1   | 3   |
| 聖天町              | 41         | 143   | 48                | 28       | 58.3  | 3        | 6   | 7   | 4   | 20  |
| 百々町              | 38         | 91    | 33                | 23       | 69.7  | —        | 5   | 1   | 4   | 10  |
| 東西町              | 79         | 227   | 77                | 51       | 66.2  | —        | 14  | 5   | 7   | 26  |
| 妙蓮寺前町            | 59         | 206   | 82                | 51       | 62.2  | 4        | 10  | 7   | 10  | 31  |
| 芝薬師町             | 39         | 140   | 69                | 48       | 69.6  | 5        | 2   | 13  | 1   | 21  |
| 阿弥陀寺町<br>(含幸在町)  | 21         | 71    | 21                | 13       | 61.9  | 1        | 2   | 4   | 1   | 8   |
| 藤木町              | 44         | 125   | 40                | 31       | 77.5  | 3        | 1   | 2   | 3   | 9   |
| 東石屋町             | 40         | 130   | 39                | 27       | 69.2  | —        | 3   | 6   | 3   | 12  |
| 西石屋町             | 14         | 43    | 12                | 9        | 75.0  | —        | 2   | —   | 1   | 3   |
| 慈眼庵町             | 43         | 150   | 47                | 37       | 78.7  | —        | 3   | 3   | 4   | 10  |
| 西北小路町            | 67         | 201   | 66                | 48       | 72.7  | 3        | 5   | 3   | 7   | 18  |
| 大猪熊町             | 74         | 218   | 78                | 49       | 62.8  | 8        | 3   | 15  | 3   | 29  |
| 計                | 1,069      | 3,231 | 1,120             | 739      | 66.0  | 36       | 125 | 108 | 112 | 381 |

都市上京区役所住民基本台帳に基いて行った。

現実調査は8月31日(火)～9月5日(日)に実施された。

調査票の配付及び回収作業は、本学社会学部学生諸君の協力を得て行なわれた。本調査の実施が、京都市及び西陣織工業組合による第10次機業調査の時期と重なり、多少の困難さともなったが、町内会の協力を得たこともあり、

ほぼ当初の目標に近い回収率をあげることができた。

昭和55年国勢調査による西陣元学区の世帯数は、1069世帯であったが、昭和57年7月現在の住民基本台帳に基づく世帯数は、1,120世帯であり、それを対象サンプルとした。回収された有効サンプル数は739サンプルであり、66.0%の回収率となった。  
(谷口浩司)